

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	全国高校生短歌大会事業			事業コード	2393
所属コード	132000	課等名	観光課	係名	
課長名	小笠原 千春	担当者名	村上 麻衣子	内線番号	3725
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要 (旧総合計画体系における位置づけ)

総合計画 体系（旧）	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 7 款 1 項 3 目 まつり・イベント振興事業（004-01）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	18 年度
根拠法令等 (H26)				

(2) 事務事業の概要

盛岡で生まれ育った歌人・石川啄木を顕彰するとともに、啄木が生まれ育った盛岡市にふさわしい、若い世代の短歌づくりを振興するため、全国の高校生を対象とした短歌大会を開催する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

平成 18 年に、石川啄木生誕 120 年・宮沢賢治生誕 110 年を記念し「啄木賢治生誕記念事業」が実施され、当事業はその中の一つとして開始された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 26 年度までに 9 回開催したことで全国的に認知されるようになり、参加校数は第 1 回の 17 校から第 9 回では約 3 倍の 50 校に増えた。北は北海道、南は福岡県と全国から応募があり全国的な広がりが見られる。

2 事務事業の実施状況 (Do)・・・・・・・・

(1) 対象 (誰が、何が対象か)

全国の高校生

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 全国の高校生	千人	3349	3356	3320	3320	3324
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

全国の高校生を迎えて第 9 回大会を 8 月 28 日(木)～30 日(金)に開催した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 応募チーム校数	校	42	51	48	50	50
B 応募チーム数	組	66	68	61	70	78
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

短歌に親しみ，石川啄木を育んだ盛岡の風土に興味を持つ。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 観光客入込客数	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	万人 回	466	471	472	490	497
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	①国	千円					
	②県	千円					
	③地方債	千円					
	④一般財源	千円	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
	⑤その他(協賛金)	千円	1,500	1,500	1,800	1,500	1,500
	A 小計 ①～⑤	千円	6,000	6,000	6,300	6,000	6,000
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	400	400	400	400	400
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
計	トータルコスト A+B	千円	7,600	7,600	7,900	7,600	7,600
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

全国の高校生が盛岡を訪れ、盛岡の先人と文化について知識や関心を深めることにより、盛岡のイメージアップや将来的な観光客誘致につながる。

② 市の関与の妥当性

盛岡の先人と文化振興及び盛岡の知名度向上、将来的な観光客誘致につながるため、市の関与は妥当であると考えられる。

③ 対象の妥当性

事業の目的上、対象は全国の高校生であり、拡大または絞ることは考えられない。

④ 廃止・休止の影響

当事業により、盛岡が短歌に取り組む高校生にとっての目標の地となり、盛岡のイメージアップになっていることから、事業の廃止はこれらの効果をなくしてしまうことにつながり、また将来的な観光客の誘致にもマイナスとなる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

事業について、より広く周知することで盛岡の知名度向上につながる。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

参加者は公募によっており、公平・公正である。

参加者は負担金を支払っており、公平・公正である。

(4) 効率性評価

運営については一部業務委託しているが、課員が少ない中で対応しており、これ以上業務時間数を削減することは難しい。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要 (新しい総合計画体系における位置づけ)

総合計画 体系 (新)	施策 (方針)	観光の振興	コード	24
	小施策 (推進項目)	観光情報の発信と観光客誘致の推進	コード	2

(2) 改革改善の方向性

企業協賛金や参加者負担金の増額による事業費の確保。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

地元での本事業の認知度があまり高くないため、企業協賛金を増やすには、もっと大会の魅力を広く発信していく必要がある。

参加者負担金の増額については、参加者の負担が多くなり、参加校数が減となる懸念があるが、おもてなしの方法などを工夫するなど参加者の満足度を高めることで克服する。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持 (従来どおりで特に改革改善をしない)
- ☒ 改革改善を行う (事業の統廃合・連携を含む)
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

本事業は市の負担金と企業協賛金を財源に運営されているが、大口の協賛企業から協賛金は平成 26 年度限りとしてされており、継続開催を確実なものとするためには、新たな協賛企業を獲得して安定的な財源を確保するか、事業のダウンサイジングが必須であり、事業のあり方について抜本的な見直し改善が必要である。